

長崎県の観光の現状・課題

令和7年度 第1回長崎県観光振興財源検討専門委員会
令和7年5月9日(金)

長崎県 文化観光国際部 観光振興課

© Nagasaki Prefectural. All Rights
Reserved

➤ 目次

✓ 説明資料

- 目次..... P01
- 日本の観光産業を取り巻く環境の変化・市場動向（今後の見通し） P02
- 長崎県の観光の現状・課題..... P03
- 長崎県の観光産業を取り巻く環境の変化・市場動向（今後の見通し） P07

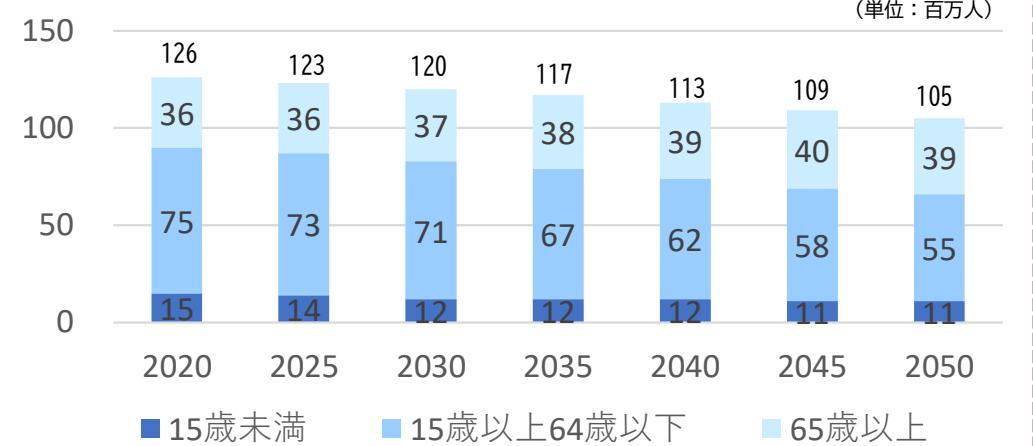
1. 日本の観光産業を取り巻く環境の変化・市場動向（今後の見通し）

- 観光振興は、地域の消費や雇用の拡大など関連産業の裾野が広く大きな経済効果が期待できる重要な取組
- 日本の将来推計人口は2020年比で2035年には92%、2050年には83%まで減少することが予想され、**国内観光需要減少が避けられない状況**
- 一方、訪日外客数はコロナ禍から回復を遂げ、2024年の年間訪日外客数は過去最高を更新、国は2030年の訪日外客数6,000万人、消費額15兆円を目標に掲げ、地方誘客・消費拡大を含めて力点を置いて推進している
- また、民間の観光調査・研究において、**今後、国内・訪日外国人の宿泊数の逆転が起こる可能性があるとの予想もある**

● 観光庁「観光の現状と今後の取組」より

明日の日本を支える観光ビジョン		観光立国推進基本計画		
2030年目標		2025年目標	早期達成目標	2023年実績
持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数		100地域		31地域 (2023/11/29時点)
訪日外国人旅行者数	6000万人	2019年水準超え (3188万人)		2506.6万人
訪日外国人旅行消費額	15兆円		5兆円	5.3兆円
訪日外国人旅行消費単価	(25万円)		20万円	21.3万円
訪日外国人旅行者1人当たり地方部宿泊数		2泊		1.27泊
訪日外国人旅行者の地方部延べ宿泊者数	1億3000万人泊			3190.9万人泊
日本人の海外旅行者数		2019年水準超え (2008万人)		962.4万人
アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合		アジア最大の開催国 (アジア主要国シェア3割以上)		アジア1位 アジア主要国シェア32.7%
日本人の地方部延べ宿泊者数		3.2億人泊		2.9億人泊
日本人国内旅行消費額	22兆円	22兆円	20兆円	21.9兆円

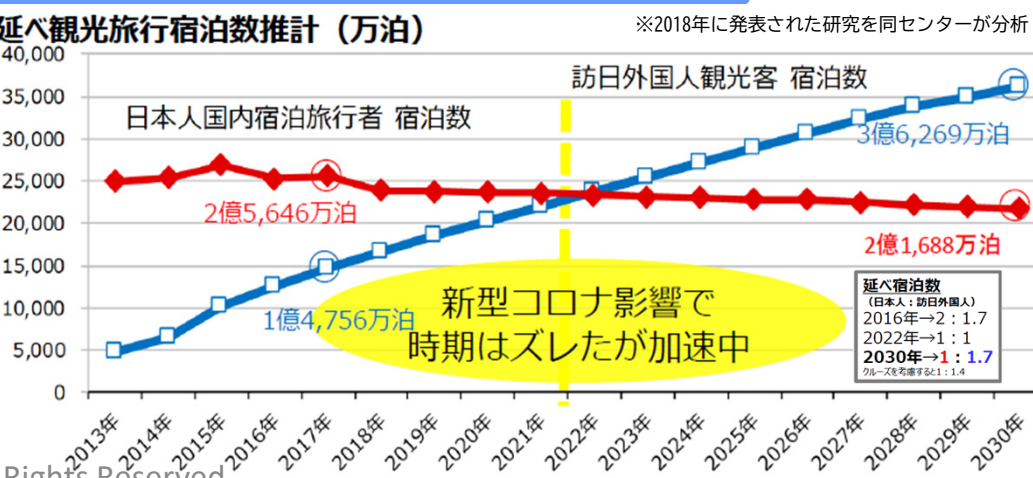
● 日本の将来推計人口



● 直近のインバウンドの状況

- 2024年の年間訪日外客数は、約3,687万人で年間3,600万人を突破し過去最高を更新した。
- 2024年の訪日外国人消費額は、8.1兆円と過去最高を更新した。

● じゃらんリサーチセンター「2030年観光の未来需要研究」



2. 長崎県の観光の現状・課題（令和5年観光客数の比較、延べ宿泊者数の推移）

令和5年は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による行動制限の解除や全国旅行支援の効果、訪日客を対象とした水際対策措置の終了等により、前年と比較して旅行需要は大幅に回復し、**観光客延べ数は、対前年比16.3%増の2,935万人**となった。

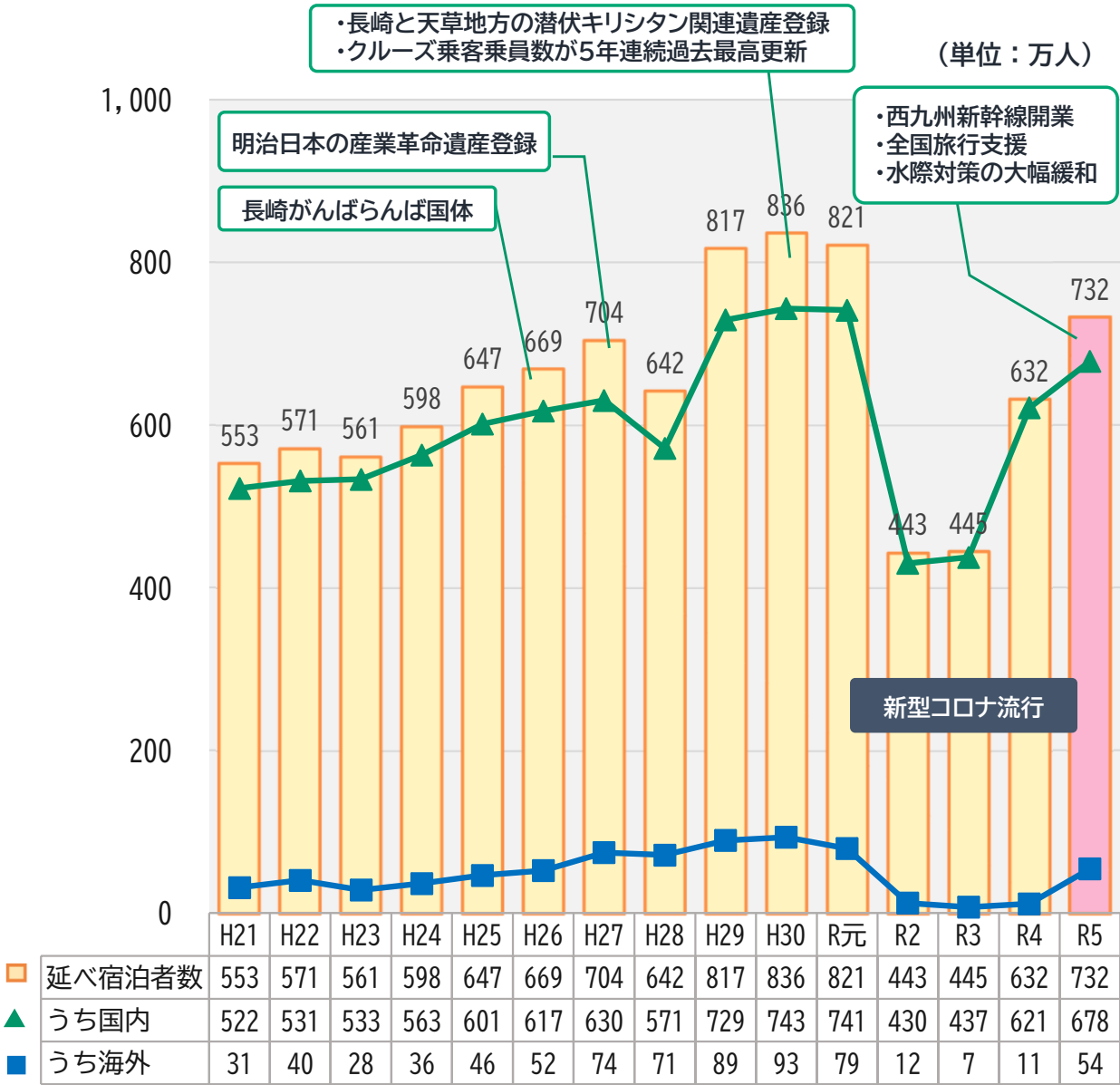
また、**延べ宿泊客数は前年から100万人増の732万人(対前年比+15.9%)**と、**3年連続の増加**となった。

観光客数比較

〔単位:万人〕

	令和4年	令和5年	対前年増減	対前年増減率
観光客延べ数	2,523	2,935	+ 412	+ 16.3%
日帰り客数	1,406	1,612	+ 206	+ 14.6%
宿泊客延べ滞在数	1,117	1,322	+ 206	+ 18.4%
延べ宿泊客数	632	732	+ 100	+ 15.9%

延べ宿泊者数の推移(国内・海外)

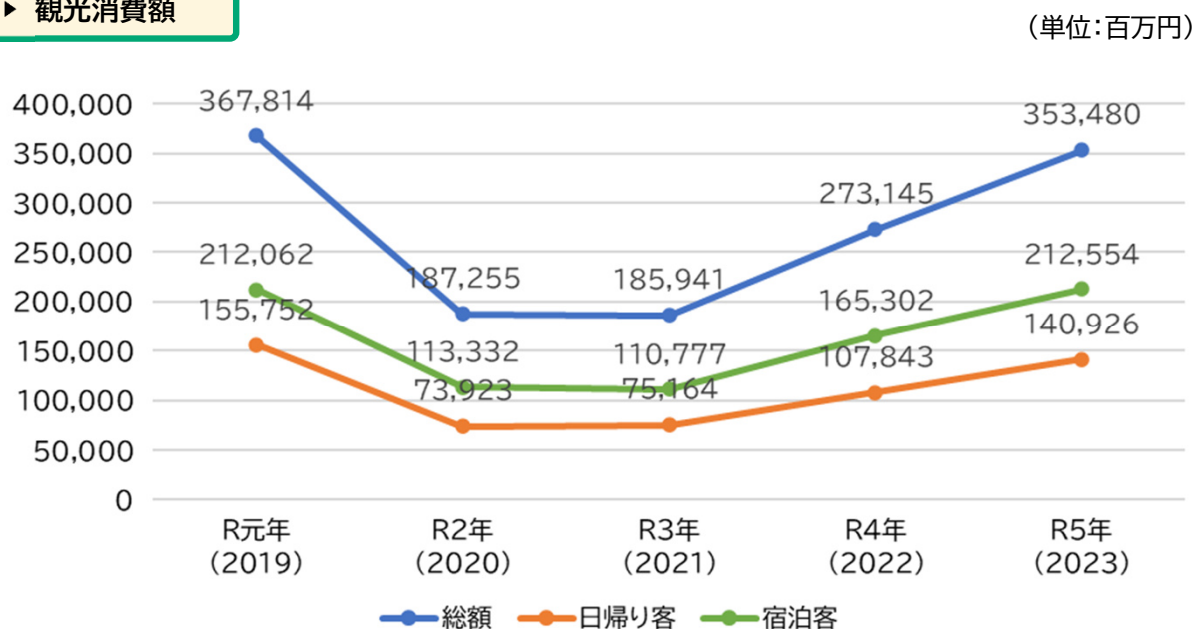


2. 長崎県の観光の現状・課題（令和5年観光消費額・単価、観光客のリピーター率）

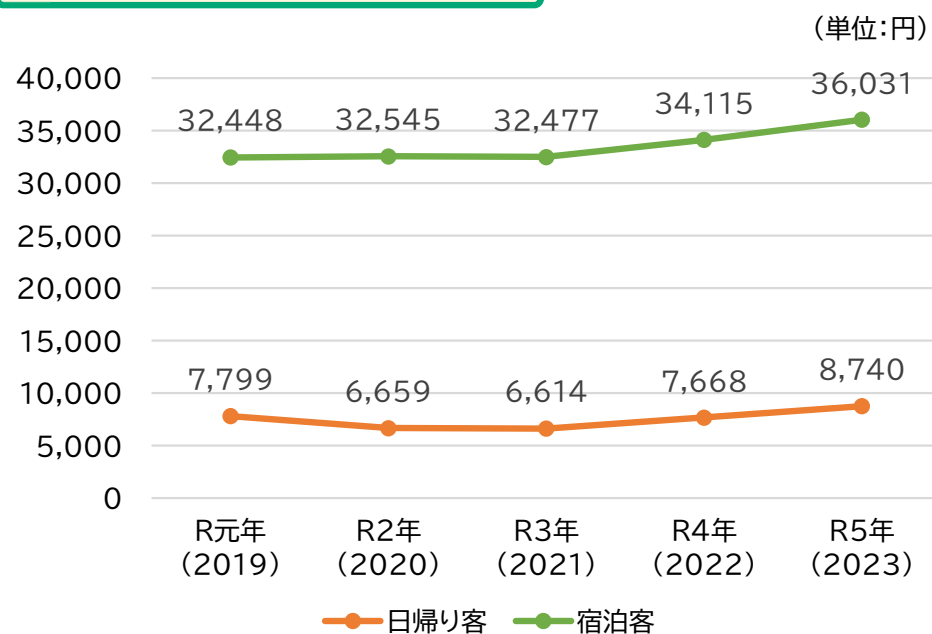
令和5年の観光消費額は、日帰り客が1,409億円、宿泊客が2,126億円となり、総額では対前年比29.4%増の3,535億円となった。また、平均単価をみると、日帰り客が8,740円、宿泊客が36,031円となり、ともに昨年を上回り過去最高となった。

一方、リピーター率は、対前年比4.4%増の62.8%となり改善しているものの、九州平均の69.0%を下回っており、リピーター率の向上が依然として課題となっている。

▶ 観光消費額

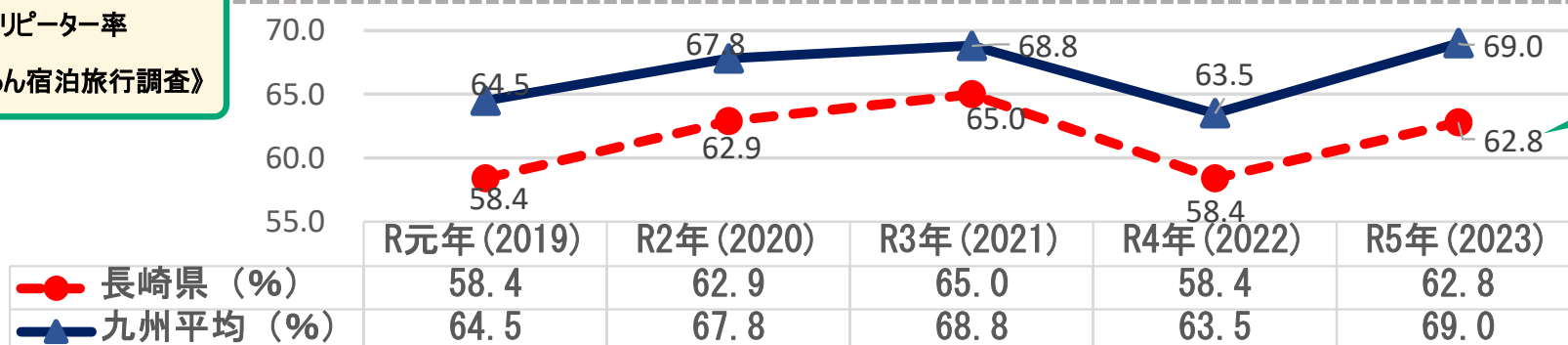


▶ 平均単価<一人当たり平均消費額>



▶ 観光客のリピーター率

《出典:じゃらん宿泊旅行調査》



九州7県中
6位

2. 長崎県の観光の現状・課題（都道府県魅力度ランキング（じゃらん観光国内宿泊旅行調査））

長崎県の結果概要

- 総合満足度は前年から2つ順位を上げ、**第6位**
- 9つのテーマ別ランキングでは、**6項目でランクイン**

『地元ならではのおいしい食べ物』は依然としてランク外。
⇒食の認知度向上が課題
『地元の人ホスピタリティを感じた』についてもランク外。
⇒「おもてなし力」向上が課題

総合満足度

順位		都道府県
2023	2022	
1位	2位	鹿児島県
2位	圏外	愛媛県
3位	6位	石川県
4位	1位	大分県
5位	圏外	徳島県
6位	8位	長崎県
7位	5位	京都府
8位	圏外	広島県
9位	9位	沖縄県
10位	圏外	島根県

テーマ別ランキング

- 地元ならではのおいしい食べ物が多かった
- 魅力のある特産品や土産物があった
- 魅力的な宿泊施設が多かった
- 地元の人ホスピタリティを感じた
- 子供が楽しめるスポットや施設・体験があった

順位			都道府県	順位			都道府県	順位			都道府県	順位			都道府県
2023	2022			2023	2022			2023	2022			2023	2022		
1位	1位		石川県	1位	3位		石川県	1位	1位		大分県	1位	1位		沖縄県
2位	5位		福岡県	2位	2位		沖縄県	1位	2位		沖縄県	2位	圏外		宮崎県
3位	圏外		鹿児島県	3位	1位		北海道	3位	圏外		鹿児島県	3位	9位		岩手県
4位	8位		高知県	4位	6位		福岡県	4位	圏外		千葉県	4位	圏外		青森県
5位	圏外		宮崎県	5位	4位		宮城県	5位	圏外		秋田県	5位	3位		北海道
6位	4位		宮城県	6位	10位		長崎県	6位	圏外		栃木県	6位	2位		鹿児島県
7位	9位		広島県	7位	7位		広島県	7位	6位		和歌山県	7位	圏外		石川県
8位	圏外		大分県	8位	8位		鹿児島県	8位	圏外		長崎県	8位	圏外		熊本県
9位	圏外		沖縄県	9位	4位		京都府	9位	圏外		佐賀県	9位	5位		秋田県
10位	2位		北海道	10位	圏外		徳島県	10位	4位		北海道	10位	圏外		高知県

※長崎県14位

※長崎県29位

- 若者が楽しめるスポットや施設・体験があった
- 大人が楽しめるスポットや施設・体験があった
- 現地で良い観光情報を入手できた
- ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた

順位			都道府県	順位			都道府県	順位			都道府県	順位			都道府県
2023	2022			2023	2022			2023	2022			2023	2022		
1位	1位		千葉県	1位	1位		千葉県	1位	1位		沖縄県	1位	1位		沖縄県
2位	2位		沖縄県	2位	2位		沖縄県	2位	圏外		宮崎県	2位	圏外		徳島県
3位	3位		大阪府	3位	4位		長崎県	3位	4位		奈良県	3位	圏外		宮崎県
4位	6位		福岡県	4位	圏外		徳島県	4位	8位		鹿児島県	4位	5位		鹿児島県
5位	5位		北海道	5位	圏外		石川県	5位	7位		秋田県	5位	2位		群馬県
6位	4位		東京都	6位	圏外		広島県	6位	3位		京都府	6位	6位		和歌山県
7位	8位		長崎県	7位	圏外		大阪府	7位	2位		北海道	7位	3位		大分県
8位	7位		神奈川県	8位	3位		京都府	8位	圏外		石川県	8位	圏外		新潟県
9位	10位		大分県	9位	7位		神奈川県	9位	圏外		長崎県	9位	4位		北海道
10位	圏外		広島県	10位	10位		三重県	10位	6位		広島県	10位	圏外		長野県

※長崎県17位

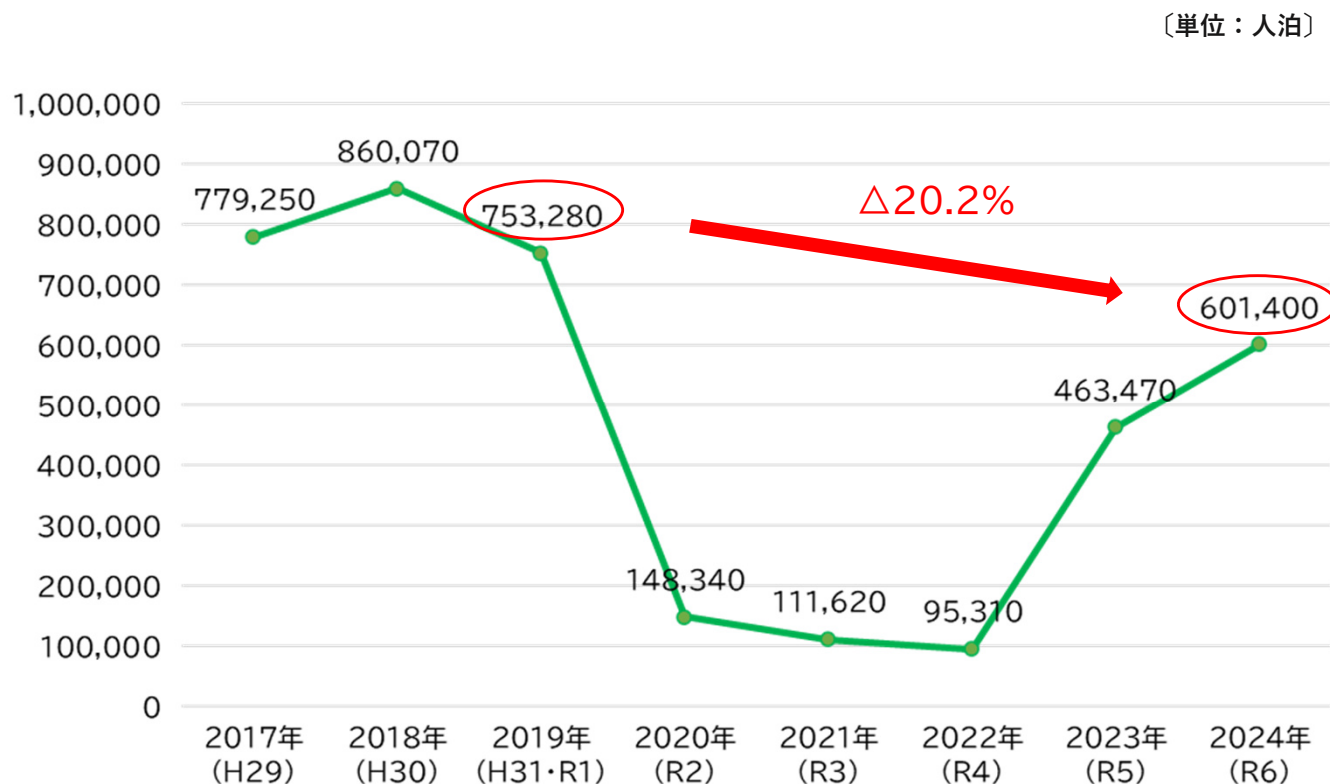
(参考:2022では長崎県は9位)

〔出典〕
●「じゃらん観光国内宿泊旅行調査2024」(リクルートじゃらんリサーチセンター調べ)
●「じゃらん宿泊旅行調査2023」(リクルートじゃらんリサーチセンター調べ)

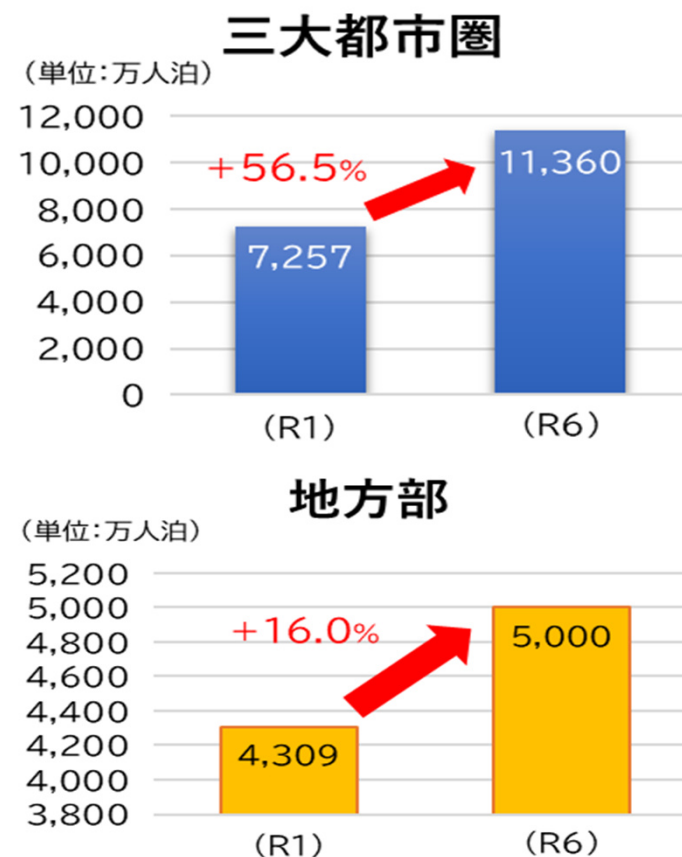
2. 長崎県の観光の現状・課題（外国人延べ宿泊者数の推移）

- 2024年(令和6年)の外国人延べ宿泊者数は、約60.1万人泊(速報値)で、2023年(令和5年)の約46.3万人泊と比較して約1.3倍と順調に回復
- 一方、三大都市圏と比較して地方部・長崎県では回復が遅れている状況

▶ 本県の外国人延べ宿泊者数の推移



▶ 三大都市圏及び地方部における外国人延べ宿泊者数比較(伸び率)



出典：観光庁宿泊旅行統計調査

3. 長崎県の観光産業を取り巻く環境の変化・市場動向（今後の見通し）

- 日本全体の人口減少に伴い国内観光需要減少が避けられない状況であり、本県の観光産業への大きな影響が予想される。
- 観光庁試算では「外国人旅行者」の観光消費額は「国内旅行者」の約2.9倍。日本の将来推計人口の減少と連動し、2020年比で2035年には「国内旅行者」が8%（59万人泊）減少すると仮定した場合、現在の本県の観光消費額（3,535億円）を維持するためには「外国人旅行者」を2019年から20万人程度増加させることが必要

▶ 観光庁試算の「観光交流人口増大の経済効果(2019年)」

定住人口1人あたり
年間消費額（130万円）

=

外国人旅行者 8人分

1人1回当たり消費額
15.9万円

=

国内旅行者（宿泊）23人分

1人1回当たり消費額
5.5万円

2019

長崎県延べ宿泊客数（国内）742万人泊



2035

▲59万人泊 ※将来推計人口減少▲8%による試算

- 本県への外国人旅行者は回復基調にあるものの、右に記載している重要指標の令和5年度実績は、当該年度の目標を大きく下回っており、本県の延べ宿泊者数全体に占める外国人の割合も7.4%に留まっている（545千人／7,325千人）

- 将来にわたって国内旅行者の規模縮小は避けられない中、現在拡大傾向にある日本国内へのインバウンド需要の本県への取り込みが重要となっている。

- 一方で、国内旅行者は国際情勢や為替変動等の外的要因に左右されにくく災害やパンデミックからの回復が早いことなど安定した需要が見込めることから、全国における本県のシェアを高めるとともに、観光消費単価を引き上げていくことが重要である。

< (R5) 重要評価指標の目標達成率 >

インバウンド

外国人観光客数：48%
(実績 54.5万人／目標 112万人)

国際航空路線

空港利用者数：21%
(実績 3.8千人／目標 18千人)

クルーズ

入港数：48%
(実績 133隻／目標 272隻)

- ◎今後、本県へのインバウンド拡大も図りながら、国内においても誘客を促進していき、観光消費額の拡大を目指していく。
- ◎そのためには、観光客のニーズに見合った受入環境の整備や付加価値の高い観光コンテンツづくり、「食」や「ホスピタリティ」の満足度の向上、国際定期航空路線の誘致等について強力に推進していく必要がある。